

# 一般社団法人 日本生態学会

## 2024 年度 第 3 回通常理事会

1. 日時：2024 年 12 月 21 日（土）13:00～17:00
2. 場所：ビジョンセンターグランデ東京浜松町 702 会議室およびオンライン（zoom）
3. 出席者：
  - ・理事会構成員（19 名・定足数 10 名以上）  
（理事）北島薫、日浦勉、立田晴記、赤坂宗光、辻かおる、久米篤、木村恵、村岡裕由、相場慎一郎、石濱史子、森章、小林真、東樹宏和、工藤岳、土居秀幸、西廣淳、中野伸一、吉田丈人
  - ・監事：大塚俊之、黒川紘子
  - ・オブザーバー：富松裕、大澤剛士、高橋一男、関島恒夫、内海俊介、半場祐子、山尾僚
  - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 18 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い北島薫会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、北島薫会長、大塚俊之監事、黒川紘子監事、議事録作成者は立田晴記専務理事が担当することとした。

### 報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
  - ・資料 1 に基づいて立田専務理事より庶務 5 件、辻会計担当理事より会計 9 件の報告があった。
2. 日本生態学会誌編集委員会報告
  - ・資料 2 に基づいて相場理事より発行状況と編集状況の報告があった。
3. 保全生態学研究編集委員会報告
  - ・資料 3 に基づいて大澤編集幹事より出版状況と編集状況の報告があった。発行が滞っている 29 巻は 12 月に 1 号が発行され、2 号も年度内に発行予定。
4. Ecological Research 編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて富松編集長より編集委員の退任と継続について、2024年の出版編集状況について国内外からの投稿が減っていること、特集の進捗と今後の企画、編集委員会の実施について報告があった。

## 5. 出版状況報告

- ・ 資料 5 に基づいて久米出版担当理事より、科研費研究成果公開促進費 OA 支援についてほぼ計画通り事業が進められていること、Wiley 社との協議事項、英文誌の SNS 運用状況、編集活動状況、データ情報の対応について報告があった。

## 6. 大会報告 (ESJ72・ESJ73 準備状況)

- ・ 資料 6 に基づいて高橋大会企画委員長より ESJ72 の申し込み状況、大会スケジュール編成の報告があった。また、子連れでの大会参加について今大会以降の検討提案があった。
- ・ 資料 6 に基づいて土居理事より ESJ73 の準備状況報告があった。

## 7. 各種委員会報告

### <キャリア支援専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて木村理事より会員対象に「誰もが参加しやすいフィールド調査マニュアル」作成のための意見募集をすること、ESJ72 にて CPD 単位発行を継続して行うこと、「こども生態学講座」を実施することが報告された。

### <生態学教育専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて北島会長よりオンラインにて委員会が実施されたこと、「教養の生態学 (仮)」の編集・出版作業が進んでいること、SSH 大会にて生態学会の宣伝パンフレットを置いてもらったことが報告された。

### <自然保護専門委員会>

- ・ 資料 13 「(仮称) 苫東厚真風力発電事業に係る意見書の再提出について」 関島委員長より説明があり、生態学会会長名で提出できるよう委員会で準備を進めているとの報告があった。

## 8. 学会賞選考委員会報告

- ・ 資料 8 に基づいて辻理事より報告があり、2 年連続で大島賞該当者なしとなった件について、理事より次回以降の応募を促すため他薦を推奨する、各地区会長に推薦を依頼、大きなスケールの研究を含む、女性

の応募を推奨する等アイデアが出された。

- ・ 資料 8 に基づいて自然史研究振興賞について工藤理事より、自然史研究振興賞のあり方について他の賞との差別化が引き続き課題であるとの報告があった。

#### 9. 日本学術会議報告

- ・ 森理事より生態科学分科会にて、2017年発出の報告「生態学の展望」のフォローアップ含む提言・報告等の発出を検討中であること、本理事会と委員が一程度重複することから両者の連携を一層図りたい旨が報告された。

#### 10. EAFES 東京準備状況報告

- ・ 資料 9 に基づいて吉田理事より 2025 年 7 月 19～21 日に東京大学弥生キャンパスで開催すること、参加者は 400 名（中国・韓国・諸外国より 200 名、日本より 200 名）とすること、参加費は一般で早期 40,000 円・通常 50,000 円、学生早期 20,000 円・通常 25,000 円とすること等の報告があった。

#### 11. 共同利用・共同研究拠点の中間評価

- ・ 資料 10 に基づいて中野理事より京大生態研センターの国際共同利用・共同研究拠点として認定されなかったこと、生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点の中間評価結果について報告があった。

#### 12. その他

- ・ 資料 11 に基づいて学会事務局よりパートタイムの時給基準が変更されたとの報告があった。
- ・ 中野理事より京大生態研センター長が交代するとの報告があった。
- ・ 北島会長より学会ウェブサイトのアップデートを引き続き検討するとの報告があった
- ・ 吉田理事より学会賞の寄附金について幅広く呼び掛けてはどうかとの提案があった。

### 審議事項

#### 第 1 号議案 日本生態学会功労賞について

- ・ 資料 12 に基づいて北島会長より提案があり、久保拓弥氏・松田裕之

氏・宮下直氏を功労賞候補者として推薦することが全会一致で承認された。

#### 第2号議案 和文誌（生態誌・保全誌）について

- ・ 資料2・3に基づいて大澤保全誌編集幹事より生態誌・保全誌の印刷業者変更の提案があり、2025年発刊号より国際文献社へ委託することが全会一致で承認された。契約内容詳細についてはこれから検討する。
- ・ 印刷業者変更に伴い生態誌・保全誌の投稿規定を改定することについて全会一致で承認された。細部について必要な箇所は理事会に確認しながら修正を進めることになった。

#### 第3号議案 Ecological Research について

- ・ 資料4に基づいて富松編集長より提案があり新編集委員の就任、投稿規定 Aims & Scope と論文カテゴリーの改訂、年間1~2報を上限として編集長推薦による OA 出版のための予算を支出することが全会一致で承認された。

#### 第4号議案 大会について

- ・ 資料6に基づいて土居理事より ESJ73 開催日程と会場について、2026年3月11日~13日に京都大学吉田南構内で、3月14日~15日に国立京都国際会館で実施することが全会一致で承認された。

閉会：以上の議事を終え、17時に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2024年12月21日

会長：北島 薫 ㊟

監事：大塚 俊之 ㊟

黒川 紘子 ㊟